



京都大学 岡山天文台
大学院理学研究科附属天文台



京大時間利用状況報告

大塚雅昭（京大岡山天文台）

せいめい望遠鏡

京大時間の概要

- ・利用できる時間：エンジニアリング時間を除いて、NAOJ共同利用時間と同じ時間（50:50）。
- ・利用資格者：宇宙物理学教室・附属天文台の教員、院生、研究員、白眉教員、連携教員のうち岡山の教員（泉浦・前原両氏）、客員教員（佐藤氏）。
- ・通常の公募と審査。京大時間においては、ToO観測はクラシカル観測より優先順位は上。
- ・ToO実施による観測時間損失の補填は行う。ただし、補填の補填はなし。
- ・京大ToO観測はNAOJ共同利用時間内にはかけられない。逆も然り。
- ・大学間連携を通してのせいめい望遠鏡観測は京大時間で実施。

公募・審査プロセス

- ・ 応募資格者：宇宙物理学教室・附属天文台の教員、院生、研究員、白眉教員、連携教員のうち岡山の教員（泉浦・前原両氏）、客員教員（佐藤氏）

- ・ 公募期間：

- ・ 19A: 2019年1月24日-2月6日
- ・ 19B: 2019年5月2-28日
- ・ 20A: 2019年10月15日-11月15日
- ・ 20B: 2020年4月21-5月20日



<https://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/general/facilities/okayama/researcher/>

- ・ 20Bから**共同利用に供しない装置開発、教育目的も応募可。**
- ・ 提出書類：岡山分室作成のフォームを流用。**SJ、TJ、ETCの計算例一式**を提出。
- ・ 公募締め切り1-2週間後、TAC委員が採否、割り当て夜数、ToO観測順位を決定。
 - ・ 通常の審査。京大時間では、**ToO観測はクラシカル観測より優先順位は上。**
- ・ せいめい小委員会と京大とによる協議・調整を経て、観測プログラムを編成。

TAC Members

- ・ 教員、観測所所員、**院生**で構成。各人の研究分野は系外惑星、恒星、星間物質、銀河、観測機器開発、など。
- ・ 学生教育の一環として**院生**も審査に参加。様々な研究分野における最先端のサイエンスに触れる機会、天文コミュニティでの奉仕活動経験を積む（CVにも書ける）、また、申請書書きスキル向上に役立ててほしい（という希望）。

19A/B

太田耕司 (chair)、長田哲也、前田啓一、野上大作、佐藤文衛（東工大、客員教員）、木野勝、松林和也、大塚雅昭、**木邑真理子、谷本敦、行方宏介、名越俊平**

20A/B

太田耕司 (chair)、長田哲也、前田啓一、野上大作、木野勝、松林和也、大塚雅昭、**行方宏介、前田郁弥、和田一馬、山田智史、田口健太**

申請・採択状況

・ 19A：30夜相当

- ・ 申請：クラシカル10件（31.9夜）、ToO 9件（25.4夜）
- ・ カテゴリ：恒星・超新星・新星・X線連星10、系外銀河6、その他3
- ・ 採択：クラシカル10件（12.6夜）、ToO 8件（15.4夜）
- ・ 不採択課題：1件（ToO1件）

・ 19B：60夜相当

- ・ 申請：クラシカル9件（40.8夜）、ToO7件（22.4夜）
- ・ カテゴリ：恒星・超新星・新星・X線連星8、系外銀河5、その他3
- ・ 採択：クラシカル9件（40.8夜）、ToO7件（20.4夜）
- ・ 不採択課題：なし

・ 20A：60夜相当

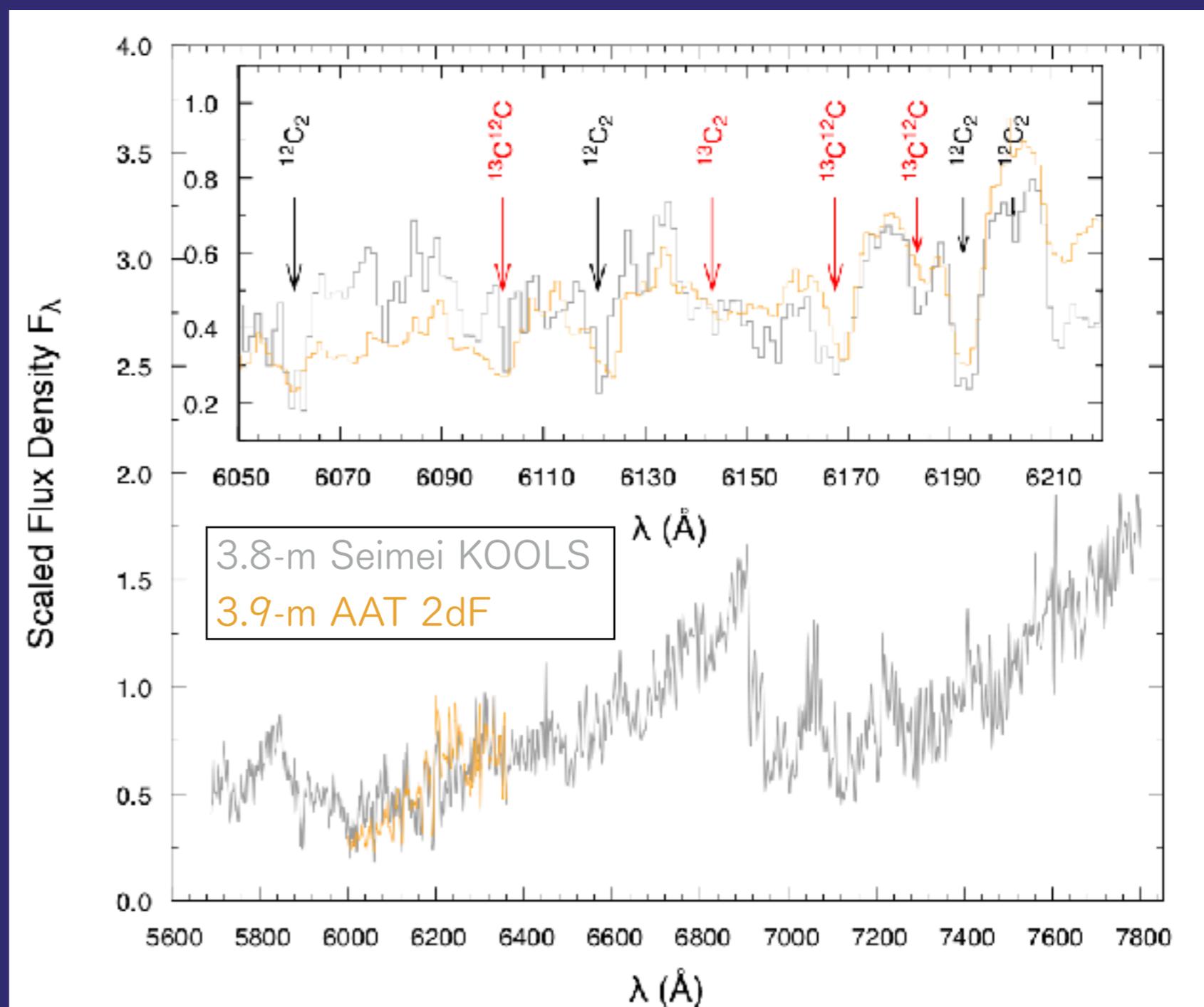
- ・ 申請：クラシカル8件（50.5夜）、ToO10件（37.0夜）
- ・ カテゴリ：恒星・超新星・新星・X線連星10、系外銀河5、小惑星1、その他2
- ・ 採択：クラシカル8件（55夜）、ToO10件（*25.5夜）
- ・ 不採択課題：なし

・ 20B：60夜相当

- ・ 申請：クラシカル・機器開発9件（46.5夜）、ToO7件（19.8夜）
- ・ カテゴリ：恒星・超新星・新星・X線連星11、系外銀河4、機器開発1、その他1
- ・ 採択：クラシカル・機器開発9件（46.5夜）、ToO7件（*19.8夜）
- ・ 不採択課題：なし

せいめい望遠鏡の初サイエンス観測： 2019年2月28日 (PI: H. Izumiura、京大時間)

シリケート炭素星BM Gem
のKOOLS-IFU とAAT 2dF
スペクトルの比較。



観測実施率・目標達成状況

京大時間のみ(DDTも含む)

19B

	観測割当 時間(h)	観測実施 時間(h)	観測 実施率(%)
8月	144.0	54.0	38
9月	156.5	61.5	39
10月	150.0	63.5	42
11月	90.0	42.5	47
12月	61.5	39.0	63
Tot.	602.0	221.5	37

20A

	観測割当 時間(h)	観測実施 時間(h)	観測 実施率(%)
1月	37.0	10.0	27
2月	85.5	52.0	61
3月	134.5	62.0	46
4月	204.0	103.0	50
5月	125.0	31.5	25
6月	18.0	2.0	11
Tot.	604.0	250.5	41

プログラム別目標達成率(%)

2019B: 10-100% (平均: 50%, サンプル数: 14)

2020A: 20-100% (平均: 65%, サンプル数: 16)

ToO観測 (by 磯貝システム)

19B

20A

	観測割当 時間(h)	ToO観測 時間(h)	(ToO観測時間)/ (観測割当時間) x100	ToO発動 回数
8月	144.0	6.0	4	5
9月	156.5	7.0	4	3
10月	150.0	0.0	0	0
11月	90.0	0.0	0	0
12月	61.5	2.0	3	1
Tot.	602.0	15.0	2	9

	観測割当 時間(h)	ToO観測 時間(h)	(ToO観測時間)/ (観測割当時間) x100	ToO発動 回数
1月	37.0	4.0	11	1
2月	85.5	1.4	2	2
3月	134.5	11.6	9	5
4月	204.0	19.2	9	7
5月	125.0	12.0	10	9
6月	18.0	4.0	22	1
Tot.	604.0	52.2	9	25

19A-20Aにおける実施ToOのサイエンスタarget:

GW、矮新星、新星、超新星、X線バイナリ

Publication Record

NASA ADSで管理。27篇を出版 (as of 18 Aug 2020)

https://ui.adsabs.harvard.edu/public-libraries/Ev54v_dfTm2pHNHfuERQkg

SeimeiTelescope [edit](#) [View library in search results page](#)

description [edit](#)

Union of libraries Untitled Library 1, MOTSUKA (IDs: nRwKs_QJQEGzvvMxp8TyKQ, S8qPC5QrQuiUjHTmijU7aA)

Number of Papers: 26 **+ 1 = 27** Date Created: Mar 4 2020, 5:06am Date Last Modified: Aug 12 2020, 11:12am Owner: gasnebu

[View editing options \(You have owner privileges\)](#)

[View Library](#) [Manage Access](#) [Export](#) [Metrics](#) [Explore](#) [Citation Helper](#)

<input type="checkbox"/>					
1 <input type="checkbox"/>	2020PASJ...72...68N	2020/08	PDF	List	Delete
	Optical and X-ray observations of stellar flares on an active M dwarf AD Leonis with the Seimei Telescope, SCAT, NICER, and OISTER				
	Namekata, Kosuke; Maehara, Hiroyuki; Sasaki, Ryo <i>and 24 more</i>				
2 <input type="checkbox"/>	2020PASJ...72...49T	2020/08	PDF	List	Delete
	First detection of two superoutbursts during the rebrightening phase of a WZ Sge-type dwarf nova: TCP J21040470+4631129				
	Tampo, Yusuke; Naoto, Kojiguchi; Isogai, Keisuke <i>and 51 more</i>				

今後の予定・課題

1. 京大時間ユーズミーティング開催？
2. 将来のキューシステム構築のためにもToO観測手順の整備。
 - ・ 観測者のスキルは様々。引き受けた観測者が何らかの判断、決断、選択を下さなければならない手順書は好ましくない。
 - ・ 代理観測者は自分の観測プログラム”プラス”「代理観測」のタイムスケジュールの最適解を限られた時間内で探さないといけない。この点でも上述のような手順書は役に立たない。
 - ・ 観測実施者がMIの学生であっても、問題なく、思い通りのデータが想定した時間内に取得できるような手順書が理想。
3. 学部生などの教育カリキュラムとしての観測申請をどうするか？
4. 独自観測申し込みフォーム作成。

Anything else?